

---

製造業

---

---

## 2. エコキャップ活動と廃プラゴミ袋使用（株式会社清光社）

### 取組の概要

弊社が清掃管理を行っているビルでの、ゴミ袋を廃プラ99%から製造している「FUROSHIKI」を採用し、今まで、分別していなかったペットボトルを3分別（ボトル、キャップ、ラベル）収集を開始した。



### 取組を始めた動機・課題

かながわプラごみゼロ宣言を行い、普段何気なく捨てているゴミに着目し、弊社が清掃管理しているビルでのビルオーナー、利用者に協力を求めた。

### 解決に向けた具体策と成果

各ゴミ置場にエコキャップ専用回収箱の設置、利用者に3分別のお願い掲示と資料を作成し、配布した。利用者も分別してくれるようになった。

該当するSDGs目標  
(3つまで)



### 3. レモンを捨てることなく使い切る（株式会社MURONE）

#### 取組の概要

- ・日本人が大切にしてきた「もったいない」精神。
- ・食品廃棄物のレモンの搾りかすなどを原材料にし、食器などに加工。
- ・プラスチック製食器の代替えによる脱プラに貢献する。

#### 取組を始めた動機・課題

- ・弊社が運営する飲食店にて廃棄するレモンの絞りかすを何かに使えないかと日頃悩んでいたところ、「100%食品廃棄物から作る新素材」技術を保有するFabula様と出会い、弊社の持つ金属加工技術との合わせ技で開発を始めた。

#### 解決に向けた具体策と成果

- ・食器に耐えうる強度を確保するのに試行錯誤を繰り返した。その結果、レモン以外にコーヒー抽出かすや、セロリ、酒かすなどの材料でも成功。
- ・今後は新たな材料にチャレンジするとともに、大型化や耐久性UPに向け誠意開発を進め、商品化につなげたい。



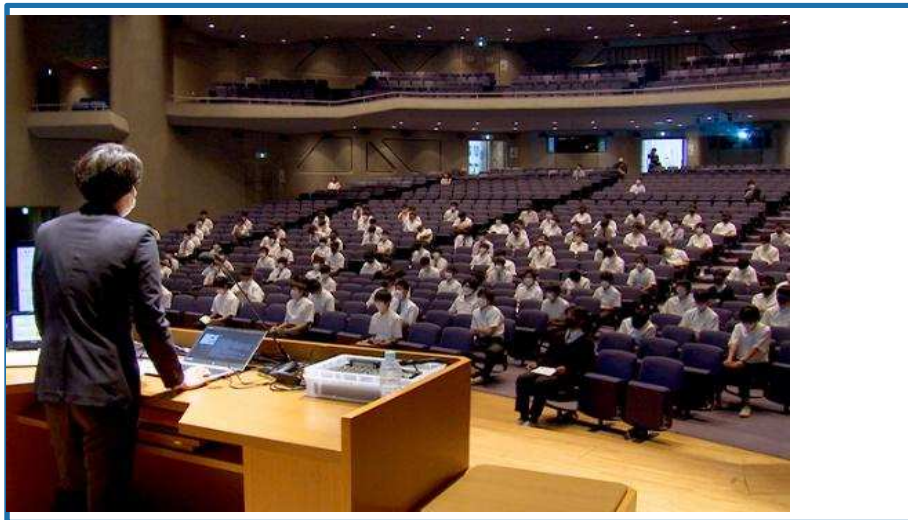
該当するSDGs目標  
(3つまで)



## 4. ファンケル 神奈川SDGs講座（株式会社ファンケル）

### 取組の概要

神奈川県内の子どもたちを対象に、単発講座・長期講座・夏休み講座の3つの講座を実施。商品の共同開発やワークショップなどの体験を通じて、SDGsの大切さを考えるキッカケを提供している。講師は当社社員を中心にこの活動に賛同した企業・団体が務める。■対象＝小学生、中学生、高校生



### 取組を始めた動機・課題

コロナ禍をきっかけに、地域社会との繋がり方の見直しを実施。2021年から「地域の子どもたちへ、地元の企業としてもっと何かできることはないだろうか。」と考え、神奈川県内の子どもたちへ「ファンケル 神奈川SDGs講座」を開始。世界的な重要テーマであるSDGsの推進および若年層への啓発活動を行っている。

### 解決に向けた具体策と成果

2021年度は、単発講座12回、長期講座9回、夏休み講座1回実施し、約2,250名の子どもたちへ講座を実施することができた。プラスチック問題や、食品ロスなどの講義を通し、「身近なことから自分も取り組めると思った」「未来のために、今自分の行動を変えることが大切だと感じた。」などの感想があがっている。

該当するSDGs目標  
(3つまで)



## 5. 地域や従業員、地球環境に配慮し自然体で取り組んできた事が、まさにSDGsそのものであった。（ニッパ株式会社）

### 取組の概要

時代の変化に順応するため、地球環境や地域への貢献、働く従業員に配慮した多くの取組の結果、地域のイノベーション企業のモデルとして様々な方面から注目され、地域経済の発展に貢献。社内的にも、女性や障害者、高齢者など誰もが働きやすいノーマライゼーション環境を永きにわたり実現。



### 取組を始めた動機・課題

60年以上にわたり地域に根ざし支えられてきた企業として、「社員に長く働いてもらうには？」「時代の移り変わりの中で求められるニーズに対応するには？」を常に考え、ISO認証取得や働き方改革をはじめ様々な取組に挑戦する必要性を感じていた。

### 解決に向けた具体策と成果

生産に必要な製造仕様書（図面）をタブレット使用によりペーパーレス化。紙の使用量を20%削減、処分量を10%削減。さらに作業工程の見える化により異なる部門間での共有を可能に。社内外での様々な研修や多能職による柔軟な働き方、独自の評価制度などを採り入れ常に変化を続けてきた。

該当するSDGs目標  
(3つまで)



## 6. 地域課題を食で解決！東山田シェアご飯（株式会社スリーハイ）

### 取組の概要

当地域は横浜市都筑区に準工業地域です。工場から出る廃棄食材、隣接する農家の規格外の野菜、寄付食材などを使って「生きづらさ」を抱えている方々にお弁当を提供しています。お弁当は住民の方々が作っており、その名も「東山田シェアご飯」です。当社の工場カフェ「DEN」のキッチンで使って展開しています。



### 取組を始めた動機・課題

青葉区でシェアご飯を既に取り組んでいる方の話を聞き、都筑区でも展開できないかと思い、スタートさせました。何らかの事情により生活がお困りの方を対象にしています。みえづらい課題のため、地域でピラ配りをしたりするなど継続的な活動が重要だと思っています。

### 解決に向けた具体策と成果

地域全体の取り組みとするため、ボランティアではなく関わる皆さんが何かしらのベネフィットが得られる仕組みにしました。地元小学校ともコラボレーションしており少しずつ認知されるようになりました。まさに東山田のエコシステムといえます。一企業だけでなく地域全体でSDGsに取り組んでいるのが特徴です。

### 該当するSDGs目標

(3つまで)



## 7. イベントでSDGs（(株)ペッププランニング）

### 取組の概要

イベントの現場において、ゴミの大量廃棄や食材の無駄使い、食器類の使い捨て、電源の大量消費、水の無駄使い、などを感じている。ゴミの分別や配電配水の効率化によりSDGs対応が経費を抑える役割も持つことを社員が常に意識することを心掛けている。



### 取組を始めた動機・課題

多くの参加者が集うイベント会場において、皆が**同じ目的意識を持つ**にはどうしたらできるのかを考えたのがきっかけである。以後、世の中の流れがこちらに傾いてきており実行ステップが上がることを期待する。

### 解決に向けた具体策と成果

イベント運営マニュアルにゴミ分別や減量対策、節電節水などを意識的に記入するようになった。現場でもゴミステーションを設置して参加者が分別回収に協力してくれるようになった。次は脱炭素など使う側の問題意識改革かもしれない。

該当するSDGs目標  
(3つまで)



## 23. 地域連携による次世代教育（株式会社富士通ゼネラル）

### 取組の概要

川崎市立末長小学校へ各学年へ年1回以上出前授業などの連携を行っている。海外とオンラインで繋いで現地人との国際交流、エアコンに関する簡易実験、エアコン解体体験、実業団水泳選手による水泳授業、支援級父兄対象の障がい者雇用現場見学会など費用をかけず既存の人材・コンテンツを活用している。



### 取組を始めた動機・課題

理系離れ、ものづくり体験が少なくなる中で次世代教育を行いものづくりは「楽しい」としてもらい、ものづくりに興味を持つ子ども達を増やしたいという思いで始めた。今後同様取組を更に他校などへも展開したいと考える。

### 解決に向けた具体策と成果

子ども達や教員から感謝され地域貢献に繋がっている。また子ども達へ教えるという通常業務で体験することが出来ないことが若手社員への教育に繋がっている。他校への展開には社内の更なる協力体制を構築していく必要がある。

該当するSDGs目標  
(3つまで)





## 24. 健康 x 脱炭素ワークショップの開催（株式会社 富士通ゼネラル）

### 取組の概要

“笑顔のあふれる街づくり”に向け、健康 x 脱炭素社会をテーマに、川崎市と共に地域住民・大学生の皆様と議論する場を設けました。誰もが関心のあるテーマを年代関係なく自由な雰囲気話し合える様、カフェにいる雰囲気健康、脱炭素の必要性についてグループディスカッションし、発表を行いました。



### 取組を始めた動機・課題

川崎市、当社がそれぞれで行ってきた健康経営、脱炭素社会の実現という目標について、地域住民の方々やこれからの時代を担う学生の皆様の関心も高まってきており、一体となった行動変容を促すことで、“いきいきとした街づくり”を実現出来るものと考えたこと。

### 解決に向けた具体策と成果

普段の生活の中で健康、脱炭素に対し意識している内容や疑問をそれぞれが持つてはいましたが、話す機会も無く、行動変容までは至らなかったが、議論する機会を得て、積極的な意見も目立ち、当社を通して世代交流が深まる場にもなりました。当社活動も紹介出来、企業価値向上の一役も担えました。

該当するSDGs目標  
(3つまで)



## 25. 神奈川大学でのワールドカフェ実施（株式会社 富士通ゼネラル）

### 取組の概要

「いきいき、わくわくする神奈川大学経営学部とは？それに近づくには何をするか？」をテーマに神奈川大学健康経営論の授業の一環としてワールドカフェを開催しました。参加した学生が対面での開催、議論を通じ、学生生活がより有意義なものとなるよう、意見交換、コミュニケーションが取れる場を設けました。



### 取組を始めた動機・課題

当社の企業理念の実践として進めている「サステナブル経営」の推進に於いて、健康経営は大きな課題、柱となっており、当社従業員のみならず、産学官一体となった取組みにも貢献することが、いきいきとした社会づくり、企業価値の向上に繋がると考えたから。

### 解決に向けた具体策と成果

未来を担う学生達に、ワールドカフェ(ワークショップ)形式で議論する場を設ける事で、コミュニケーションの活性化を促し、テーマに沿った内容の意見共有してもらう事で、個々の意見の発信、共感、協調が必要なことを実体験してもらい、問題解決の方法を学んで貰い、当社からも教育面への社会貢献が出来たと考えています。

該当するSDGs目標  
(3つまで)



## 26. 「食」を通じた地域社会への貢献とフードロス削減、環境保護推進 (有限会社グリーンフーズあつみ・おつけもの慶)

### 取組の概要

たった一坪のお店から始めたお店が口コミで評判となり、皆さまの支持をいただきながら直営店が増え事業が拡大していく中で見え始めた問題を解決することで、使い捨てプラ容器の使用を年間85%削減達成するとともに地産地消の推進や地域産業の活性、持続性のある共創社会の展開に結びついた。

### 取組を始めた動機・課題

コロナ課による巣ごもり需要の拡大により、販売商品の需要と供給増加に伴う使い捨て容器の使用や端材が増えたこと、また増産に伴う人材確保と育成、生産性を高めるための設備投資といった課題が見えたことがきっかけとなり、取組みを始めた。

#### 人材確保と育成

国籍、性別、年齢を問わず積極的かつ平等な雇用対策を実施。安定雇用、食の安定供給で企業の持続性を高める。

- 当社従業員の国籍  
日本、韓国、中国、フィリピンなど

あご盛るほどおいしゅうみ **あつみ**

### おつけもの慶

製造工場の拡張

安心・安全な食の安定供給を目指した工場設備の拡張。生産性を高めるための設備を地元異業種企業との協業で受注。

自動キムチ充填装置 (現在進行中)

当社製造工場内の課題解決に向けたタカクラフトによる工場視察風景

#### 使用する容器の見直しと効率化 職員全員の目線で取組み

再生可能な植物由来原料由来素材へ転換  
どうもろしやサトウキビなどを含む包材  
植物由来原料使用容器  
植物由来原料 (バイオマス) 利用の P P 袋

●削減した年間7800kg(85%)の内訳

1白の平均数値：約400名 (当社全従業員)

A: プラ容器の使用量 (1p26g/一人当たり購入約2p55円)  
26g x 2p x 400名 x 30日 x 12月 = 7,468kg

B: シンクの使用量 (1p3g/一人当たり使用量約1p10円)  
3g x 400名 x 30日 x 12月 = 432kg

A合計 7,468kg + B合計 432kg = 7,900kg  
→ 7,800kg 削減

お客様/購入し、繰り返し持ち帰り専用容器の使用

2021年までに、使い捨てプラスチックを85%削減します。

地産地消の推進  
神奈川県産品  
納税控

食品ロスゼロを目指す…  
大根やカブを使用するカリテキ、かぼちみちを製造する際に端材として出る大根の葉、かぶの葉等をお弁当や総菜として二次活用を強化。さらに弁当や総菜類を冷凍販売することにより、保存が可能な野菜廃棄削減へ寄与。

### 解決に向けた具体策と成果

再生可能な植物由来原料を含む包材への切替えで環境負荷を軽減、食品ロスの軽減を目的とした端材活用による二次商品の開発、そして国籍や性別を問わない平等な雇用による人材確保と地元異業種企業との共創による工場設備機器の導入で生産性の向上へ寄与。

該当するSDGs目標  
(3つまで)



## 35. 節電と緑化（有限会社馬場製作所）

### 取組の概要

社内全体の照明をLED化し消費電力が分かる計測器を設置、見える化により会社全体での節電に取り組んでいます。また、環境の一環として、社内緑化を推進、建物の周囲を整備し緑化することで、小さな一歩から大きな一歩へ、カーボンニュートラル実現へ向けて前進しています。



### 取組を始めた動機・課題

社内全体の消費電力を低減するために、はじめに実行したのが照明のLED化です。環境への配慮を取り組みへと変化し、消費電力の見える化を図った。それに繋がる環境への取り組みを推進、緑化を進めるのに苦勞をしています。

### 解決に向けた具体策と成果

節電の初期費用を予算計画し、効果をあげています。緑化について毎日、女性社員がお手入れをしてコツコツと育て立派な花を咲かせ、観賞用としても社員のストレス緩和につながることを期待でき、社員同士のコミュニケーションを図れる場になります。

該当するSDGs目標  
(3つまで)



## 55. リモート工場見学によるSDGs出前授業（株式会社デコリア）

### 取組の概要

お得意先でSDGsに積極的に取り組む(株)サンゲツ（名古屋）と(株)デコリアが協同で開催した取組。(株)サンゲツ本社の近隣小学校（名古屋市立名古屋小学校）の校外学習で(株)サンゲツショールーム見学と壁紙工場リモート工場見学を通して、地域企業・産業の学びとものづくりにおけるSDGsへの取組を学ぶ企画。



### 取組を始めた動機・課題

かながわSDGsパートナーとして活動している当社の取組をみて、(株)サンゲツ様から協力依頼を受けた。子どもたちでもわかる工場見学、リモートならではの利点と欠点を考慮し、現地にもスタッフを派遣してリアルな体験とコミュニケーションを意識した。

### 解決に向けた具体策と成果

生活の身近にある会社と商品を知ることで「働く」ことを学び、工場が取り組むSDGsを知ることによって環境への関心を高めることができた。また、2社のパートナーシップで子どもたちの学びの場を創出できた。

該当するSDGs目標  
(3つまで)



## 56. おきなわ&かながわSDGsパートナーのコラボ（株式会社デコリア）

### 取組の概要

おきなわSDGsパートナーの(株)サンゲツ沖縄とかながわSDGsパートナーの(株)デコリアがコラボレーションした取組。(株)サンゲツ沖縄が実施した沖縄県立石嶺児童園（児童養護施設）のリフォーム支援にかながわSDGsパートナーの当工場から生産時に発生する端材壁紙を提供した。



### 取組を始めた動機・課題

得意先である(株)サンゲツ沖縄がおきなわSDGsパートナー認定された報を受け、当社とコラボできないか？打診しZOOMミーティングを重ねて実現した取組。インテリア業界ができることを共に考え取り組んだコラボレーション企画。

### 解決に向けた具体策と成果

おきなわSDGsパートナーとかながわSDGsパートナーの県をまたいだSDGsパートナー同士のパートナーシップで取り組めた。

児童養護施設のリフォーム支援に加え、端材壁紙の再利用もできた。

該当するSDGs目標  
(3つまで)



## 57. アートで地域を盛り上げよう！（株式会社デコリア）

### 取組の概要

小田原フラワーガーデンのイベントを告知する看板を小田原城北工業高校デザイン科の生徒たちが製作。

看板の素材には(株)デコリアの端材壁紙を再利用した。出来上がった看板を最寄り駅である伊豆箱根鉄道大雄山線の飯田岡駅ホームに展示するという取組。



### 取組を始めた動機・課題

コロナ禍で発表の機会を失っていた高校生達に、活躍の場を与えてあげたいと地元企業3社が協力して企画した。今年で3年目3回目の実施となり恒例のイベントに成長している。

### 解決に向けた具体策と成果

デザイン製作を通してクライアントニーズを実現するプロセスを学ぶデザイナーの職業体験の場となった。また、イベントを通して地元企業の交流が生まれ地域活性化につながった。

該当するSDGs目標  
(3つまで)

